

# 2013年3月期 第3四半期 決算報告

2013年2月8日  
株式会社 **クレスコ**  
経営企画室

## 1.1. 決算のトピックス

連結

### ▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 ……137億12百万円 (前年同期比 8.8%増)
- ⊕ 営業利益 …… 8億40百万円 (前年同期比 27.9%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を38百万円上回り、52億86百万円(前年同期比0.7%増)
	公共・サービス分野	前年同期を2億93百万円上回り、34億14百万円(前年同期比9.4%増)
	流通・その他の分野	前年同期を5億16百万円上回り、26億25百万円(前年同期比24.5%増)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を1億41百万円上回り、7億51百万円(前年同期比23.1%増)
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を3億16百万円下回り、6億42百万円(前年同期比33.0%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を4億83百万円上回り、9億50百万円(前年同期比103.6%増)
商品・製品販売		前年同期を下回り、41百万円(前年同期比56.4%減)

### ▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 …… 123億16百万円 (前期末比96百万円減)
- ⊕ 自己資本比率 …… 64.8% (前年度末 61.6%)

## 1.2. 第3四半期の振り返り

単体

### 全般傾向

- ◆ **ビジネス系ソフトウェア開発事業**
  - お客様の引き合いや案件は、引き続き増加傾向にあるものの、全体では中小規模の案件が多く、受注競争も厳しい
  - 新規顧客開拓や一括請負案件の獲得に注力
  - サービスポートフォリオの整備や開発体制の再構築(オフショア、ニアショア)が急務
- ◆ **組込型ソフトウェア開発事業**
  - 通信システム分野は、スマートデバイス関連の開発案件が増加
  - カーエレクトロニクス分野は、車載関連の案件が減少
  - その他情報家電は、カメラ関連分野の案件が増加
  - 品質管理ソリューションに続く、サービスモデルの創出に注力
- ◆ **サービスビジネス事業**
  - クラウドサービスは、代理店展開等の新たなビジネスモデル展開に注力し、堅調
  - スマートフォンビジネスは、受注は低調、事業体制を強化
  - セキュリティビジネスは、ニーモニック認証を核とした法人向けサービスを拡大

### 課題






組込みビジネスにおける新規顧客の開拓

社員およびビジネスパートナーの確保





新規ビジネスモデルの早期事業化

## 1.3. 第3四半期の振り返り①

### 子会社

 <p>クレスコ・ イー・ソリューション</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ERP (SAP/R3)の導入コンサルティングが前期に引き続き順調</li><li>◆ コンサルティングビジネスは、引き合いが増加し、堅調に推移</li><li>◆ クレスコと共同で、クラウドビジネスにも参入開始</li></ul>
 <p>ワイヤレステクノロジー</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 製品販売の受注が低迷。特定顧客への依存度が高く、受注が不安定に</li><li>◆ 要素技術 (Bluetooth) の試作品開発案件が減少、リカバリーできず</li><li>◆ 組込みモジュールの差別化やハイブリッドセンサの活用提案が課題</li></ul>
 <p>クレスコ・ コミュニケーションズ</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 収支が悪化していたマーケティングソリューション事業 (沖縄センター) をガイアックスに譲渡後、代替する新事業の立ち上げが遅延</li><li>◆ 製造業向け出荷検品システムやスマートデバイスを活用したSI提案に活路</li></ul>
 <p>クレスコ・ アイディー</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 主力のセキュリティロッカーの販売は、クレスコグループのクロス営業により、堅調に推移</li><li>◆ RFIDタグや関連製品については専門商社として事業を展開</li><li>◆ クレスコ北陸と共同で、新規事業の立ち上げ準備を開始</li></ul>
 <p>アイオス</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 主力の受託ソフトウェア開発が順調に推移し、稼働率も順調に推移</li><li>◆ プロジェクトの採算管理を強化し、「利益の出る体質」への改善が課題</li></ul>

## 1.3. 第3四半期の振り返り② 子会社

 <p>クレスコ九州</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 地場企業の受注は、大きなブレもなく、推移</li><li>◆ クレスコグループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発の実現、ビジネスパートナー拡大が課題</li></ul>
 <p>クレスコ北陸</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 独自のITソリューションを武器に、地場企業の深耕に注力し、受注拡大</li><li>◆ クレスコグループの連携によるシナジービジネスとサービス力強化が課題</li></ul>
 <p>科礼斯軟件(上海)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 中国進出企業の支援ビジネスを事業の柱に、営業活動を実施</li><li>◆ ビジネス系の案件を受注し、事業基盤の構築に弾み</li><li>◆ 上海地場のIT関連企業との開発体制拡充に注力</li></ul>
 <p>シースリー</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 日立グループ関連の案件を中心に稼働が安定</li><li>◆ 特に鉄道、ダム、電力関連の制御系システムに強み</li><li>◆ OS(オペレーティングシステム)関連のシステム開発で差別化を図る</li></ul>

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

【注】2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。

【注】2012年12月14日に「株式会社シースリー」を子会社化いたしました。

## 2. 財務経営成績 等

### 2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 第3四半期 ＜実績＞	2013年3月期 第3四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 通期 ＜2012/5/7公表＞
売上高	12,609	13,712	108.8%	19,000
売上総利益	1,959 (15.5%)	2,194 (16.0%)	112.0%	3,210 (16.9%)
営業利益	656 ( 5.2%)	840 ( 6.1%)	127.9%	1,250 ( 6.6%)
経常利益	758 ( 6.0%)	944 ( 6.9%)	124.5%	1,350 ( 7.1%)
四半期純利益	210 ( 1.7%)	525 ( 3.8%)	249.9%	760 ( 4.0%)
EPS 円/株	19.00	48.64	—	70.41

【注】（）内の数字は各々の利益率を表します。

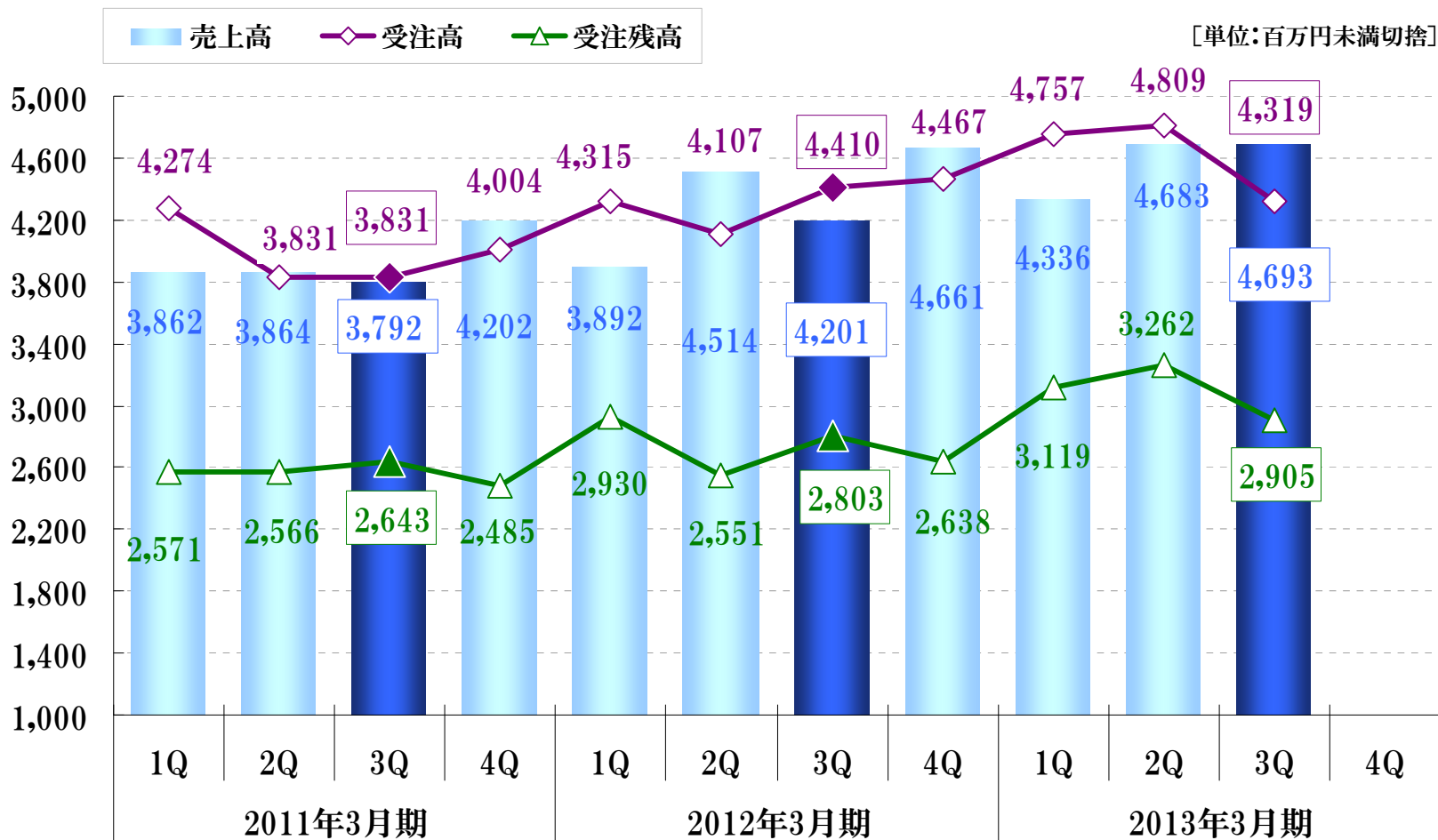
## 2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

セグメント		2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	増減	増減率
大区分	小区分				
ソフトウェア	金融関連	5,248	5,286	38	0.7%
	公共・サービス	3,121	3,414	293	9.4%
	流通・その他	2,109	2,625	516	24.5%
	計	10,478	11,327	848	8.1%
組込型 ソフトウェア	通信システム	610	751	141	23.1%
	カーエレクトロニクス	958	642	▲ 316	▲ 33.0%
	その他	466	950	483	103.6%
	計	2,035	2,344	308	15.1%
商品・製品販売		94	41	▲ 53	▲ 56.4%
全計		12,609	13,712	1,103	8.8%

## 2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結





## 2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 第3四半期 ＜実績＞	2013年3月期 第3四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 通期 ＜2012/5/7公表＞
売上高	8,921	9,111	102.1%	13,000
売上総利益	1,353 (15.2%)	1,447 (15.9%)	106.9%	2,120 (16.3%)
営業利益	592 ( 6.6%)	648 ( 7.1%)	109.4%	1,000 ( 7.7%)
経常利益	738 ( 8.3%)	749 ( 8.2%)	101.5%	1,120 ( 8.6%)
当期純利益	261 ( 2.9%)	419 ( 4.6%)	160.6%	640 ( 4.9%)

【注】 ( )内の数字は各々の利益率を表します。

## 2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期
売上高	962	1,050	121	66	101	92
売上総利益	217	233	22	1	25	23
営業利益	88	98	5	▲ 14	▲ 13	▲ 10
経常利益	89	100	5	▲ 14	▲ 13	▲ 10
当期純利益	49	62	3	▲ 9	▲ 7	4
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	86.0%

## 2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・アイディー [資本金: 100]		 アイオス [資本金: 313]		 クレスコ九州 [資本金: 50]	
	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期
売上高	13	28	2,389	2,803	125	130
売上総利益	0	7	311	364	16	15
営業利益	▲ 34	▲ 15	27	123	▲ 2	▲ 2
経常利益	▲ 34	▲ 15	33	130	▲ 1	▲ 2
当期純利益	▲ 34	▲ 17	▲ 1	78	▲ 2	▲ 2
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

## 2.5. 損益計算書 [要約]③

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ北陸 [資本金: 50]		 科礼斯軟件(上海) [資本金: 70]		 シースリー [資本金: 20]	
	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期
売上高	-	416	-	0	-	69
売上総利益	-	85	-	0	-	16
営業利益	-	28	-	▲ 8	-	6
経常利益	-	30	-	▲ 15	-	7
当期純利益	-	▲ 3	-	▲ 15	-	1
持分比率	-	100.0%	-	100.0%	-	70.0%

【注】 2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。

【注】 2012年12月14日に「シースリー」を子会社化いたしました。

### |3.1. 基本方針

次世代クレスコの創生  
**推進元年**

## 3.2. 重点施策

- ▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進  
原点に回帰し、企業グループ全体の「品質マネジメント力」の底上げを実現する。
- ▶ サービス事業のビジネスモデル強化  
オリジナル製品(セキュアダイブ、インテリジェントフォルダ等)の**拡販戦略**実行。
- ▶ グループ経営基盤の拡大と営業拠点の広域化  
M&Aによる「**複合IT企業化**」の推進と、**地方マーケット**への参入。
- ▶ 海外事業の推進  
海外進出する企業を支援すべく、**現地法人**を設立。
- ▶ 技術研究所の設立  
時代を読み、トレンドをつかみ、人を育成し、**ビジネスを生み出す**専門部門を設立。

## 3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

### 1 経営環境

当第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日～平成24年12月31日)の経営環境は、東日本大震災の影響で大きく落ち込んだ前年度の反動や効率化投資による国内需要に牽引され、設備投資や雇用も回復基調となり、IT投資も改善傾向でございました。

当社企業グループといたしましては、着実な案件獲得に向けて、既存顧客の深耕や新規顧客開拓を積極的に展開し、受注機会の創出に注力する他、ERPコンサルティング、クラウド型オンラインストレージサービス、セキュリティ関連製品の拡販、新規事業の開発、M&Aの実施に努めてまいりました。また、品質管理室を中心とした「品質マネジメント」に徹底的に取り組み、開発プロジェクトの収支改善を継続的に行ってまいりました。

### 2 2013年度のITトレンド

次々に新モデルが発表されるスマートフォンやタブレットPCの普及がIT需要を後押しし、ソーシャルメディアやモビリティ分野、クラウド・サービス分野の加速度的な成長が見込まれます。また、「ビッグデータ」として注目されている企業内の膨大な情報を活用するビジネスインテリジェンス分野も分析手法や活用ソリューションが開発される中、有望視されております。大企業だけでなく、中堅・中小企業にとっても大規模開発の必要がないクラウドサービスがもたらす価値は大きなものがあり、「所有」から「利用」のトレンドが強まると考えております。

## 3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

### 3 クラウドビジネスへ本格参入

2012年12月に、アマゾン ウェブ サービス(AWS)を利用したクラウドビジネスの開始を宣言いたしました。

本ビジネスは、クレスコとクレスコ・イー・ソリューションの協業事業です。

クレスコグループは、これまで多くの業種のお客様に対してERPソリューションを含む基幹系システムの構築支援サービスを実施してまいりました。

本ビジネス「**Creage**(クレアージュ) **for SAP Solutions**」は、クレスコグループの長年に渡るITインフラ構築とERPコンサルティングのノウハウを活かし、SAPユーザーをはじめ、企業が抱える基幹系システムの様々な課題を解決する最適なソリューションをご提供いたします。

### 4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。

なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。